



狂言 附子

野村 萬斎
野村 裕基



写真 政川慎治



仕舞 鶴 鶴澤久
求塚 観世鏡之丞

芦屋能・狂言鑑賞の会

第二十一回

長山耕三



写真 工房円 第20回「葵上」
シテ (故) 長山耕三郎 ワキ 福王茂十郎師

「ごあいさつ」

芦屋能 狂言鑑賞の会は、父である故・長山 禮三郎が平成元年に発足し、芦屋市民の皆様方にお支え頂き平成30年に20回を迎える事が出来ました。(平成13年より隔年実施)心よりお礼申し上げます。

父が装束を着て最後のシテ(主役)「葵上」を勤めたことこの公演で、父も思い入れがあったかと思えます。

まだ収束がみえない、コロナ禍の厳しい現状の中、芦屋市の皆様にお支え頂き、また、この度は文化庁より「ARTS for the future」助成事業の支援を受けることができました。

皆様の御助力により、公演を開催できます事、深く感謝致すばかりでございます。

敷居が高いと思われる伝統芸能でありますが、この度、当公演に「音声ガイド」を導入いたします。能楽が初めての方はもちろん、これまでご覧頂いた方にも、舞台を解りやすく楽しくご覧いただけるかと存じます。

客席数も50パーセント、定員にて、お客様に安心して鑑賞して頂けますよう、感染予防対策を徹底いたします。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

【芦屋ルナ・ホール 客席ご案内】



1階席		2階席	
Aブロック	28席	Fブロック	23席
Bブロック	56席	Gブロック	23席
Cブロック	58席	Hブロック	21席
Dブロック	45席	Iブロック	23席
Eブロック	33席	Jブロック	8席
Oブロック	13席		

1階席合計	233席	2階席合計	98席
		1階2階合計	331席

*別途車いすスペースは1階に2席・2階に1席

お問い合わせ・お申し込み

■ 芦屋能舞台 お問い合わせ
TEL 0797-26-6290
 Email info@ashiya-nohbutai.com
 メールでもお申し込み出来ます
 HP「芦屋能舞台」で検索

【協賛】 (五十音順)

- 芦屋神社
- 認定NPO法人 芦屋市国際交流協会
- 一般社団法人 芦屋写真協会 井上 雅晴
- 芦屋市谷崎潤一郎記念館
- 芦屋ライオンズクラブ
- 大関株式会社
- Gray Institute of Management
- 一般社団法人 コミュニティ援助センター
- 一般財団法人 衆我財団
- 耕三の会 (社中会員)

※他2社 社名掲載御辞退

皆様の御協賛をお願いしております
何卒宜しくお願いたします

2021年 11月 26日 (金) 芦屋ルナ・ホール

午後5時30分開演 (終了予定 午後8時頃) 芦屋市業平町8-24 TEL 0797-31-4995
 (午後4時45分開場) JR芦屋駅西へ徒歩約 7分 阪急芦屋川駅南へ徒歩約 7分
 阪神芦屋駅北へ徒歩約 8分

前売り券 指定席 (1階) 4,000円 自由席 (2階) 3,000円 (当日券は500円増)
 音声ガイド 500円 (事前申込みのみ 別途保証金1,000円は返却時にお返しします)

前売開始 2021年 9月 28日

前売券販売所 大丸芦屋店 (2階ファミリーコンシェルジュデスク) TEL 0797-80-7865
 キッチンカフェなりひら (芦屋市民センター内) TEL 0797-34-7714
 芦屋市谷崎潤一郎記念館 TEL 0797-23-5852
 ローソンチケット (Lコード 55290 指定席のみ) ・芦屋能舞台

主催 耕三の会 後援 芦屋市 芦屋市教育委員会

お問合せ 芦屋能舞台 TEL 0797-26-6290

令和三年十一月二十六日(金)午後五時三十分

番組

市長様ご挨拶 いろいろ まい

仕舞 鶴 鶴澤久 藤井大雄
地謡 長山桂三

求塚 視世鏡之丞 鈴木啓吾
林本大

狂言 附子 太郎冠者 野村萬斎
主飯 田豪

次郎冠者 野村裕基
後見 中村修一

休憩二十分

仕舞 鶴(ぬえ)

摂津国芦屋の里が舞台になっています。鶴とは、頭は猿・手足は虎・尻尾は蛇という姿の妖怪で、近衛天皇を悩ませたものの、源頼政に討たれ、亡骸を淀川に流された物語として知られています。

芦屋の里は鶴が流れている土地で、芦屋川の下流の最後に架かる鶴塚橋のほとりには、流れている鶴を吊ったとされる鶴塚もごさいます。仕舞では、鶴退治の裏美を受ける頼政と、退治される川に流される鶴の、両方を舞い演じます。

この度は、女性能楽師として邁進してこられた鶴澤久師の舞台をご覧頂きたく存じます。厳格な芸風で知られる舞をお楽しみください。

仕舞 求塚(もともつか)

二人の男に同時に求婚を迫られ、板扶みになった菟名日処女(うないおとめ)はどちらの男も選ぶことができず、耐えかねて身を投げる。しかし、男たちが後を追って死んだ罪で、死後もなお続く地獄の苦患……。

『万葉集』や『大和物語』に見られる物語です。菟原処女の「菟原」は現在の芦屋辺りとされています。

その模様を、現代の能界を代表する能役者で、能楽協会理事長の重責も負われている視世鏡之丞師の舞で、ご覧頂きたく思います。

狂言 附子(ぶす)

ある家の主が外出するにあたり、使用人である太郎冠者(たろうかじや)と次郎冠者(じろうかじや)に留守番を言いつけます。「風にあたらだけでも死んでしまう」「附子」という狂毒が入っている桶には近づくな」と命じられた太郎冠者と次郎冠者は、附子のごとく気がなくなって仕方がなく、扇を使って空気を仰ぎながら近づき、桶の中身を覗いてみました。すると、毒であるはずの附子がおもしろい様子を見えます。

現在小学校の教科書には狂言「柿山伏」が掲載されていますが、以前は「附子」が取り上げられていました。

王 長山三誉

老嫗 上野雄介

天女 上田顕崇

漁翁 長山耕三

歳王権現 長山桂三

能 国栖 侍臣 福王知登 太鼓 山本寿弥 太鼓 上田慎也
與昇 喜多雅人 小鼓 大倉源次郎 笛 野口亮

與昇 是川正彦

追手ノ兵 中村修一

追手ノ兵 野村裕基

後見 視世鏡之丞 中森健之介
林本大

地謡 視世喜正
大西礼久
鈴木啓吾
寺澤幸祐

終了予定 午後八時頃

場内ではマスク着用のご協力をお願い申し上げます。
感染防止対策のため終演後は係の者が順番に退席の誘導を致します。
ご迷惑をおかけしますがお席にお座りのままお待ち下さいませ。

皆様にお願いの演目かと存じます。野村萬斎師、裕基師の、息のあつた親子共演をお楽しみ下さいませ。

能 国栖(くす)

若き帝(大海人皇子)。後の天武天皇が皇位を狙う伯父(大友皇子)に都を追われ、お供の者と吉野へ落ちのび、国栖の里にたどり着きます。そこに帰宅した老夫婦は、我が家の上の不思議な光を見て、貴人が居られるのではないかと考えました。

夫婦が家に入ると帝が休まれており、事情を聞き帝を匿うことに。お供の者(臣下)の求めに応じて、根岸と国栖魚(鮓)を帝に献上します。

供御(帝の食事)の残りを賜った老人は、神功皇后の占いにぞらえ、帝が再び都に帰られるならば魚も生き返ると予言し鮓を川へ放すと、はたして魚は生き返り、激し流れを泳ぎ上ります。この場面は「鮓之段」と呼ばれる見どころです。

しかし敵の追手が現れます。老人は舟の中に帝を隠し、必死で守ります。無事に追手が帰ると、救われた帝は老夫婦を労い、夫婦は感激して涙を流します。

やがて夜になると、天女が現れ舞を舞い、さらに歳王権現が姿を現して、天武の聖代を奏くのでした。

歳王権現は修験道の仏で、吉野金峯山寺の本尊です。謡の中で「足をとひつげ」とある通り、左足を踏みぬめて右足、右手を上げ三結(仏具)を持った姿は有名です。

今のコロナ禍から脱せることを願い、明るい予兆を告げる演目を選びました。能楽囃子方の第一人者で、人間国宝でもあられます。大倉源次郎師、豊かな声量と華やかな芸風を持つ視世喜正師の地謡に支えたい。ただいた上で、芦屋在位の長山耕三師をはじめ、若手能楽師を中心とした配役にてこの演目に臨みます。皆様、是非お楽しみください。

衆我財同様ご協力のもと「音声ガイド」を導入しております

能楽研究者・「能楽と郷土を知る会」実行委員の朝原広基氏が初心者の方、皆様が安心して鑑賞して頂けるよう、案内お供致します。開演の20分前より「仕舞」の演目と見どころについて、能「国栖」は上演中に解説いたします。お狂言は楽しんでご覧下さいませ。

■音声ガイド 500円(事前申込のみ)保証金 1,000円(機械返却時にお返しいたします)